

## 把瑠都関の歩み

カイト・ホーベルソンは、2000年9月に、ヴィンニ町スポーツセンターのサクラ・スポーツクラブで、柔道と相撲のトレーニングを始めた。それまで、カイトは、主にバスケットボールの練習に励んでいた。相撲を始めたばかりのカイトは、翌年の3月に、いきなり、サクラ・スポーツクラブの相撲総合チャンピオンになった。(写真)



左から：ヨエル・パユ，カイト・ホーベルソン，ミレ・サンク

カイトは、最初、クンタ村総合高校に在学し、将来は船員になるのが志望で、クンタ村から片道40kmの道をバスで往復して、ヴィンニ町のトレーニングに週3回通っていた。まもなく、カイトの才能の開花のためにはより良い条件でトレーニングを受ける必要があることに気づいたトレーナーは、彼をアウデンテセ私立学校に転校させて、主に柔道の訓練を受けさせた。アウデンテセ校時代のカイトは、柔道の他に相撲の対抗試合にも出場している。学校では柔道のトレーニングを受けていたカイトだが、どういうわけか、相撲の試合での成績のほうが輝かしかった。



タリン Info CUP 2003

欧州選手権 2003 (ドイツ, トルゲロ)

2002年～2003年のカイトの国際相撲試合での成績は次の通り。

2002年 ヨーロッパ選手権 (20歳以下)	銀メダル	個人 (100キロ未満)
	銅メダル	個人 (無差別級)
	銅メダル	団体
2003年 ヨーロッパ選手権 (20歳以下)	銅メダル	団体

2003年のエストニア選手権で、カイト・ホーベルソンは、決勝でマティス・オウナプーを破り、エストニアの相撲総合チャンピオンになった。

2003年にカイトはアウデンテセ私立学校を卒業し、深夜営業の飲食店のガードマンとして就職したが、カイトも彼のトレーニング仲間で親友のオット・ユーリカスも、その仕事に満足できなかった。2人は私(リホ・ランニクマー)のところにやってきて、「私たち2人が日本に行って大相撲の力士になれるよう世話してください」と申し入れた。

その年の10月、エストニアの各県の相撲関係者の研修旅行で日本に行くことになった私は、国際相撲連盟の田中英寿事務総長とお会いした。その会見で、エストニアの2人の若者の相撲の弟子入りを受け入れの約束を取り付けた。2004年1月、めでたく公式の招待状が届き、2月18日、カイトとオットは日本に向けて出発した。



タリンの日本大使館で開かれた壮行会

左から：オット・ユーリカス，リホ・ランニクマー，カイト・ホーベルソン，長谷川憲正・在エストニア大使

大相撲力士志望の2人は、2ヶ月半、日本大学の相撲部で稽古を付けてもらったあと、2004年5月場所に初土俵を踏んだ。カイトの四股名は「把瑠都凱斗」(バルト・カイト)で三保ヶ関部屋、オットの四股名は「北欧司音」(キタオウジ・オト)で入間川部屋に所属した。2人とも前相撲を満足の行く成績でクリアし、序の口に昇格した。



日本大学での稽古風景



北欧司と把瑠都

把瑠都の序の口の成績は優秀で、7月場所の序の口優勝を7戦全勝で勝ち取った。北欧司の成績は5勝2敗で、そのうちの1敗は把瑠都に負けたものだった。2人とも序二段に昇格する。把瑠都は序二段でも優勝したが、肩を傷めた北欧司は大相撲を断念、8月中にエストニアに帰国した。

把瑠都はその後も快進撃を続け、わずか8場所で十両昇格という関取昇進までの史上最短記録を打ち立てた。幕内昇進の最短記録の樹立は、残念ながら、盲腸の手術のために叶わなかった。



虫垂炎の手術後の把瑠都

### 把瑠都凱斗(カイト・ホーベルソン) 2004年5月～2014年2月

番付最高位	大関
本名	カイト・ホーベルソン(Kaido Höövelson)
生年月日	1984年11月5日
出生地	エストニア、ヴァイケ・マーリヤ(Väike-Maarja)
身長と体重	197.5 cm, 186.8 kg
相撲部屋	三保ヶ関部屋・尾上部屋
四股名	把瑠都凱斗
初土俵	2004年5月場所
引退	2013年9月場所
断髪式	2014年2月8日

- 出場した場所数：55，431勝213敗，怪我のため欠場102試合
- 幕内の成績：41場所，330勝197敗，技能賞1回，殊勲賞1回，敢闘賞5回
- 大関の成績：15場所，133勝69敗，優勝1回(2012年初場所)



- 総合成績：幕内優勝も含めて，優勝7回，準優勝4回



2014年2月8日

文：リホ・ランニクマー (Riho Rannikmaa)  
日本語訳：松村一登